2009年10月25日（毎月5・15・25日発行）**兵庫保険医新聞**（昭和43年6月12日第三種郵便物認可）号外

淡路支部ニュース
2009.10.25
No. 252

兵庫県保険医協会
淡路支部
〒656-0051 洲本市物部三―三―44
松本医院内
☎〇七九九―二二―〇〇七三

在宅ケア研究会を開催

褥瘡治療の最前線学ぶ

医師や看護師など六十七人が参加した（九月二十四日・洲本市、二面に感想文）

Let's・・・

三カ月ぶりに支部ニュースをお届けします。この三カ月いろいろのことがございました。

なんと言ってもトップは政権交代。戦後史上初めての現象。鳩山新内閣の評価は六十五％とか。まずは来週から始まる臨時国会でしょう。麻生さんはもちろんでしょうが、谷垣禎一・小沢一郎両氏の名前がマスコミにあまり現れないのは？

わが支部では二百五十号記念号の発行。お目通しいただけましたでしょうか？　ご感想お寄せいただければありがたいんですが。某氏からも指摘されたんですが、いささか残念だったのは、若い先生方のご投稿をいただけなかったこと。これはひとえに編集子の努力不足であったと自戒しているところです。その中で設立総会、第十五回総会の記念講演いただいた野村先生や、伊東・中島・昇各先生の玉稿（あわせて宮田孝司君）、拙文（十五頁）と併せてご一読いただければ幸いと存じます。

この間、もう一つの事件？は、十月八日の台風問題。伊勢湾台風と同程度、そしてコースは五年前わが家も水没した台風と近似しているとの報道に、前夜はとうとう床に就かずに待機しました。翌日から数日間、来院の患者さんから「よかったですね」の発言が相次いだ。一方、関東地方の竜巻まがいの風害は地球温暖化のためなんでしょうか。今後～来年以降の懸案となるのでは？　昨今、春・秋がないような気もしている。

二百五十号から再出発。内容はなんでも結構、短いものでも…。他では言いにくいこと等も。インターネットではいろいろあるようですね。是非ご投稿ください。［松本記］

在宅ケア研究会　感想文

褥瘡の基礎から“ラップ療法”まで

洲本市　**三木　隆彦**

淡路支部は九月二十四日に市民交流センターで、県立淡路病院皮膚科の神吉晴久先生を講師に、在宅ケア研究会「褥瘡管理の最近～創傷治癒のエビデンスに基づいて」を開催。医師や看護師、介護士など六十七人が参加した。

講師の神吉晴久先生

コメディカルの出席も多く盛大な研究会であった。

褥瘡の基礎として、まず急性創傷と慢性創傷、創傷治癒遷延要因の説明があった。

褥瘡とは慢性創傷のことで、治癒遷延要因をなくせば適度の湿潤環境を保つだけで治癒に向かうということ。

治癒遷延要因としては感染、壊死組織（不良肉芽）、血流障害の三つがあり、これを分析して排除すれば、治りにくい慢性創傷が急性創傷に変わり治りやすくなる。

創傷感染の治療としては、デブリドマン、洗浄、消毒、抗生剤があり、マゴット療法の貴重な映像も提示していただいた。傷は消毒してはいけないと言われだしているが、褥瘡管理ガイドラインでは、感染を認め浸出液があれば洗浄前に消毒をしてもよいとしている。

褥瘡の予防、管理のガイドラインがあるが十分なエビデンスはまだなく、臨床にそぐわない。しかし、エビデンスはないが有効な方法がある。

そのひとつとしてラップ療法がある。ラップは医療材料でない点など問題はあるが、適切な症例に同意書をとって施行すればよい。日本褥瘡学会も、ラップ療法を正式な治療法のひとつに位置づける方向で動いている。

褥瘡管理のポイントとして、褥瘡の評価、体位変換、適切なマットレス、栄養管理、局所管理、スキンケアといった点について説明いただいた。

今回の在宅ケア研究会も、現場の医療従事者にとって大変役立つ有意義な会であった。

会員投稿

今日の政治状況のなかに見せる諸政党の動向に寄せて

洲本市　藤原　知

「ユキオ」と呼んでいただけて、「バラク！」と呼ばせていただけて、それで日米対等が見えたかのように微笑をたたえて自己賛美する。

お金持ちの余裕が言わせるのか、それとも貪って手に入れた富に関わる贖罪の意識が言わせるのか、どちらにしても上からの目線のその先にある、まことに“柔(やわ)い”ないし“温(ぬる)い”、あるいは“緩(ゆる)い”「友愛」精神は困りもの。この精神で世界の海へ乗り出されたのでは、日本丸の行く海も平安ではありえない。

自民党になりかわり「日米同盟」の一層の強化を確認してアメリカを安心させた。アメリカの顔色を伺いながらも、「東アジア共同体」構想も容認していただけた。

世界をリードするに足る二酸化炭素削減の二十五％という数字。世界に見せつけて時の人となった。首尾は上々である。

二十五％に財界はいい顔しないが、何とかなる、何とかするとその顔に書いてある。

すでに手を打って、二大政党制の枠に民主党をはめてある財界は、結局のところ制御できるものとして泳がせている。

もともとマニフェストに財界の諸悪に切り込む姿勢はなかったし、今もその気配はない。自公の残した負の遺産の処理におおわらわの民主党の一所懸命が、その気配もない実相を隠して余りがある。

自民党は財界の支援を受けながら、二大政党制の確かなる一極をなす保守本流としてよみがえる。その一歩を踏み出した。落日しても滅することはない。常に今日的に化粧直しして、また陽は昇るのである。搾取のメカニズムがこの社会にある限り、自民党もまた、栄枯盛衰はあっても不滅である。

公明党は常に、勢いのある方にくっつく、それでいて「中道」を僭称する鵺(ぬえ)的存在。歴史を動かす主役を演ずることはあり得ない。脇にあってガチャガチャと効果音的ノイズを出すだけの存在である。

次に、およそ粋(イキ)を感じさせない共産党。時代の“ヒーロー”を感じさせるものは寸分もない。これでは風雲を呼びそうもない。

「獄中十八年」といった「非合法」の苦難を知らず、その思想を衣として纏うても血肉化することのなかった平時に生きる子どもたち。

それでも子どもたちは生起する時代的社会的な複合現象に翻弄されながらも、社会進歩の側に立って誠実に戦っている。

そして、その誠実さの故に、複合現象の渦巻く中、思想的には民衆と権力への迎合に他ならない、是々非々主義の道に迷い込んだりする。

この世に搾取する仕組みのある限り、その廃絶への戦いは続く。まだまだたっぷりある歴史の時間をかけてである。

そして今共産党に求められるのは、政治の場で単に施しを求めるだけではなく、仏陀のように施しをしながら彼岸へ至る道を大衆に説くことである。道を説く人の少なきを哀しむ。

淡路支部「臨床談話会」のご案内

一般診療における認知症の早期発見・初期治療・精神症状への対応

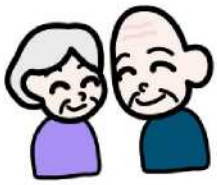
日　時　11月19日（木）18時30分～

会　場　洲本市文化体育館２Ｃ－３

講　師　県立淡路病院精神神経科医長

青山　慎介先生

参加費　無料



近年の医学研究の進歩から、認知症はいわゆる「老年期痴呆」としてひとくくりにできるものではなく、中枢神経系の疾患として鑑別診断が求められるようになった。また、疾患によっては治療や進行予防が可能な病態も多く存在することも明らかになりつつある。講演では、特に最も高頻度と考えられているアルツハイマー型認知症（AD）の初期診断や、塩酸ドネペジルの使用方法、随伴することの多い精神症状への対応について考えたい。また、近年診断する頻度が増加しているレビー小体型認知症（DLB）についてもふれたい。

さらに、兵庫県立淡路病院は、平成21年４月付で兵庫県知事の指定を受け「認知症疾患医療センター」を開設した。これは認知症患者とその家族が、地域で安心して生活が出来るための支援の一つとして、都道府県や制令指定都市が指定する病院に設置するもので、認知症疾患における鑑別診断、地域における医療機関や包括支援センターとの連携、問題行動への対応等についての相談業務を行っている。このことについてもお話したいと考えている。　【青山 記】

お問い合わせは、℡ 078－393－1807　事務局：楠、段林まで

申込書ＦＡＸ 078－393－1802　事務局・楠あて

11月19日（木）保険医協会淡路支部「臨床談話会」に

（　　）参加する　　（　　）都合がつけば

お名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　医療機関＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

お電話＿＿＿＿（　　）＿＿＿＿